

ささぐりの食と農を考える協議会（福岡県糟屋郡篠栗町）

R5 補正
R6 当初

67

背景・課題

篠栗町では、高齢化による離農のため休耕農地が増加傾向にあるが、一方で、安心・安全な農作物の生産を志向する農家や消費者も出てきており、関係各所からの有機農業に関する問い合わせや相談も受けている。

しかし、これまで、有機農業に対する知識や栽培技術に特化した農業者等がないことや慣行栽培が主流であることから普及の取組が行われてこなかった。

成果目標

目標年度：令和7年度

成果目標：有機農業実施計画の策定

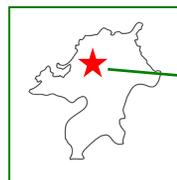
主な取組内容

①生産

- ・試験作付け（栽培品目）についての検討会を開催
- ・有機農業に関する研修会を開催
- ・試験ほ場の整備（草刈・耕耘・電柵等）、土壌分析等を開催

②消費

- ・学校給食への導入に向けた検討会を開催
- ・協力機関と連携し加工品開発の検討



篠栗町

構成員

篠栗町、JA粕屋、福岡農林事務所北筑前普及指導センター、農業者、有機農業有識者・学校給食関係者

品目

にんじん、ばれいしょ、たまねぎ、だいこん、そば

有機農業に関する研修会



試験ほ場の様子



普及に向けた取組

みどりの食料システム戦略推進交付金による事業を活用し、篠栗町有機農業実施計画を策定し、今後有機農業を普及させるため、有機農業に取り組む生産者の拡大及び支援体制の整備や学校給食への導入も含めた、有機農産物の販路及び消費拡大等の取組を行う。

問い合わせ先

ささぐりの食と農を考える協議会
（事務局：篠栗町産業観光課農林業係）
TEL：092-947-1215

みやき上峰有機農業推進協議会（佐賀県三養基郡）

R5補正
R6当初

68

背景・課題

みやき町及び上峰町は、北部九州の中央に位置し、豊かな自然環境に恵まれていることから、米や野菜をはじめとする様々な農産物が盛んに生産されている。

町内には以前から有機栽培に取り組む経営体がみられるものの、地域ぐるみの取組はほとんどなく、有機農業の面的な広がりはみられなかった。

今後は、有機農産物の需要が拡大し、さらに環境負荷低減と生産力の維持・向上の両立が求められるようになると考えられることから、行政や農業者、JAなど地域ぐるみで有機農業に取り組む農業者を支援し、生産量の拡大を図る。

成果目標

- 有機農業実施計画の策定

主な取組内容

①生産

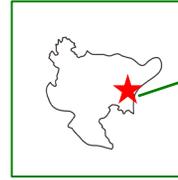
- ・技術研修会を開催
- ・技術実証ほの設置（土づくり、病害虫・雑草管理（IPM））
- ・未利用資源の把握、活用等、域内で発生する堆肥等の利用、有機農業ほ場の団地化に向けた検討

②加工・流通

- ・地元企業と連携した加工品の製造開発
- ・学校給食における有機農産物の導入促進

③消費

- ・有機農業をテーマにしたイベントを開催



みやき町、上峰町

構成員

みやき町、上峰町、JAさが、農業者、飲食店経営者、酒造会社、学識経験者等

品目

技術研修会の開催



視察研修



イベントの開催



普及に向けた取組

農業者の技術力向上を目的とした研修会の開催、視察研修、販路拡大に向けた加工品の製造開発、学校給食における有機農産物の導入推進等、生産から流通、消費まで一貫した取組を進めることで、持続可能な地域農業の発展を図る。

問い合わせ先

みやき上峰有機農業推進協議会（みやき町産業支援課）
TEL：0942-96-5545

五島市農業振興対策協議会技術者会（長崎県五島市）

R5補正
R6当初

69

背景・課題

五島では古くより甘藷の栽培が行われ、島の重要品目となっていたが、でん粉需要の低下や農業者の高齢化により、栽培面積が著しく減少した。一方で近年、青果用甘藷の栽培が増加し、有機栽培や化学肥料・化学農薬を低減した栽培を志向する生産者が増加しつつある。

現在これらの取組は、個々の経営体独自のノウハウによって行われているため、地域で広く導入できる技術体系の確立が課題となっている。



五島市

構成員

JAごとう、五島市、五島振興局、生産者

品目

かんしょ（露地）

成果目標と主な取組内容

- 畝内局所施肥機を使用した可変・局所施肥の検証、ドローンによる農薬散布の検証に取り組み、化学肥料・化学農薬の低減及び栽培管理の省力化を一体的に実施する技術体系の確立を目標とする。



局所施用機を使い、畝内に施肥を行っている様子



局所施用機から肥料が出ている様子



防除に使用したドローン



ドローン防除の様子



ドローン防除後の感水紙

普及に向けた取組

現在は個々の経営体ごとに行われている甘藷栽培について、可変・局所施肥等を取り入れることで改定した栽培暦を普及させるために、協議会で産地戦略を策定し、環境への負荷が低減された栽培体系について地域での定着を目指す。

問い合わせ先

長崎県五島振興局 農業振興普及課
TEL：0959-72-5115

南島原オーガニック協議会（長崎県南島原市）

R5補正
R6当初

70

背景・課題

本市の課題として、加速度的に進む少子高齢化による担い手不足と、市内全域が中山間地域である故の作業効率の悪さ、地域内の知名度の低さなどが挙げられる。

成果目標

目標年度：令和9年度

成果目標：有機JAS 取得面積拡大

R4年：10ha → R9年：11ha

有機面積拡大

R4年：135ha → R9年：140ha

有機経営体数

R4年：140戸 → R9年：145戸

主な取組内容

①生産

- ・新規就農者の確保に向けた支援体制の構築
- ・有機野菜の品目拡大に向けた試験栽培の実施（今後実施予定）
- ・有機JAS認証取得、更新に向けた支援の実施
- ・栽培技術向上に向けた研修会、先進地視察の実施

②加工・流通

- ・知名度向上、販路拡大を目的としたマルシェ、商談会などへの参加
- ・取組活動紹介に向けた広報用資料の作成

③消費

- ・消費者理解促進に向けた講演会、ワークショップ等の開催
- ・有機野菜を使用した学校給食の実施



南島原市

構成員

南島原市、市内有機農業生産団体（3団体）、島原振興局
JA島原雲仙、南島原市教育委員会、
地元企業 等

品目

野菜（たまねぎ等）

作付けの様子



講演会の様子



有機農産物を使用した学校給食



普及に向けた取組

本事業に取り組むことにより、地域内外へ向けてのPRを行う。

また、有機農業に取り組みやすい環境づくり（人材育成、ほ場整備、地域内での販路の確保等）を進めることで有機農業の取組面積や取組農業者の増加を推進する。

問い合わせ先

南島原オーガニック協議会
TEL：0957-73-6661

九州木質バイオマス発電連携協議会（熊本県熊本市）

R5 補正
R6 当初

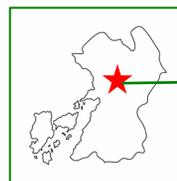
71

背景・課題

木質バイオマス発電は、発電コストの大部分を燃料の調達コストが占め、昨今、燃料調達価格が上昇傾向にあることから、事業継続の見通しが悪化している状況。

代替燃料として、地域で未利用となっている「竹」の活用が考えられるが、「伐採や輸送コスト」、「燃料加工時のチップー等の破損」、「燃焼時のクリーナーの発生」等の課題があり、これまで利用ができていなかった。

「竹」の燃料利用が実現すれば、林地や農地等への「竹」の侵入による被害が軽減され、農村環境の保全管理にも寄与することが期待される。



熊本市

構 成 員

九州木質バイオマス発電連携協議会 会員

品 目

—

成果目標

木質バイオマス発電所で「竹」を混合燃焼する際の課題、対応策を検討・整理する。

主な取組内容

本事業は、九州地方の木質バイオマス発電所の安定経営と技術向上を目的に設置された九州木質バイオマス発電連携協議会の会員で、熊本県内に拠点を置く5社（発電事業者、燃料供給事業者等）と「竹」の燃焼実証実績のある発電事業者が中心となって、「竹」の混合燃焼に向けた現地調査や燃焼実証試験等により課題を把握、協議会において課題の対応策等を検討しており、今後、得られたノウハウを会員企業の地域で共有する。

調達

- ① 「竹」の収集・運搬方法の調査
- ② 燃料加工に関する調査

生産

- ③ プラント運用時の影響、燃焼効果検証
- ④ 「竹」の混合燃焼による実現性の確認

実施主体：九州木質バイオマス発電連携協議会（会員企業15社）



枕崎バイオマスエナジー合同会社（「竹」の燃焼実績）

熊本県内に工場・拠点がある5社



日本フォレスト(株)

⇒ 原料調達調査への協力



(株)有明グリーンエネルギー

⇒ 混合燃焼試験の実施
原料調達調査への協力



(株)九州バイオテック

⇒ 試験用燃料供給への協力



熊本錦グリーンパワー

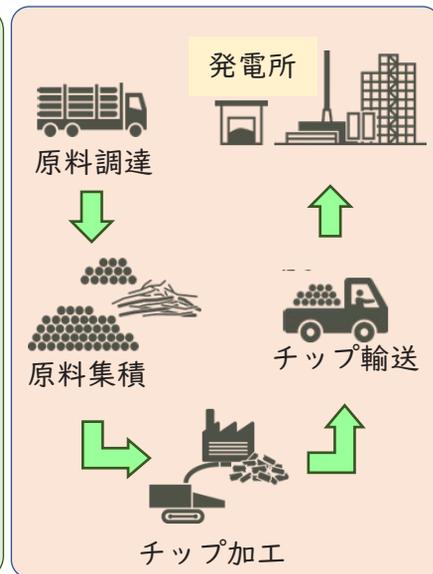
⇒ 原料調達調査への協力



(株)森のエネルギー研究所

⇒ 調査、分析、とりまとめ

実施体制



フロー

普及に向けた取組

「竹」を木質バイオマス発電所で混合燃焼できることを明らかにし、需要先を創出することで「竹」のサプライチェーンの構築を目指す。

問い合わせ先

九州木質バイオマス発電連携協議会

（株式会社森のエネルギー研究所 九州営業所）

電話：090-2150-3833 mail：sato@mori-energy.jp

山江村（熊本県山江村）

背景・課題

山江村では特産のやまえ栗を中心とした村づくりを進めている。今後、さらにやまえ栗の品質を向上させる一環として、せん定枝のバイオ炭化による土づくりや有機農業に適合した農薬への切り替え等、環境配慮型農業の導入を行っている。今後は栗以外の農作物にも広げていくことで、農産物の高付加価値化を目指している。

また、高齢化・人口減少による担い手不足や栽培面積の減少により栗の収穫量が減少。これらの問題解決のため、スマート農業機械等の導入による作業省力化が課題となっている。



山江村

構成員

山江村、球磨地域振興局、熊本県立大学、まほらファーム、生産者

品目

くり

成果目標と主な取組内容

- 有機資材の導入
- 栗のせん定枝のバイオ炭化及び農地施用
- ラジコン草払機・自走式堆肥散布機の導入に取り組み、化学肥料の施用量低減、バイオ炭の施用による炭素貯留、省力化の検証を行い、技術を確立する。



「山江村グリーンな栽培体系研究検討委員会」の発足



グリサポ勉強会の実施（月1回程度）

←専門家による座学 →小学生向けワークショップ



栗せん定枝回収およびバイオ炭生成



ブレンドキャスタ（自走式）を使用し、バイオ炭と堆肥を混合・施肥している様子

普及に向けた取組

環境に配慮した農業生産を行うにあたって、栽培品目である栗から出るせん定枝をバイオ炭として活用し、その効果を検証していく過程を村HPやSNS・ケーブルテレビにて公表、勉強会の実施、報告書を配布するなど地域への普及を図る。

山江村役場企画調整課

問い合わせ先

電話：0966-23-3111（代表） FAX：0966-23-3114

Mail：kikaku@vill.yamae.lg.jp

大分県（大分県全域）

背景・課題

いちごは大分県の重要推進品目として県内全域で40ha栽培されている。これまで、天敵昆虫のハダニ防除への導入やミツバチの受粉作業への活用など生産力向上と、環境負荷軽減を図るグリーンな栽培品目としての地位を確立してきた。

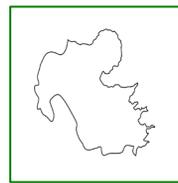
しかし、アザミウマやアブラムシ等の難防除病害虫の防除は、農薬に依存せざるを得ない状況である。産地では抵抗性害虫の出現や天敵昆虫・ミツバチの定着不良などの問題も発生しており、化学農薬のみに依存しない防除体系の確立が課題となっている。

成果目標

環境にやさしい栽培技術として、

- アブラバチによるアブラムシ防除
- 光反射資材によるアザミウマ類防除
- ミツバチへの影響の少ない農薬防除体系実証

に取り組むとともに、これらの技術導入による化学農薬防除回数の削減による省力化の検証を行い、IPM技術を確立する。



大分県全域

構成員

大分県、大分県振興局、大分県農林水産研究指導センター農業研究部、大分県農協、いちご生産者、アリストライフサイエンス

品目

いちご（施設）

主な取組内容

- 天敵や反射ネットの利用によるアザミウマ類防除の体系マニュアル化
- 天敵を利用したアブラムシ防除体系の現地へのマニュアル化
- 化学農薬の使用回数の削減



カブリダニを放飼し、アザミウマ類の防除を実証（ククメリスカブリダニ）



光反射資材によるアザミウマ類の侵入防除の実証（商品名：スリムホワイト）



アブラバチバンカーと天敵の放飼によるアブラムシ防除



現地検討会の開催
実績検討会、
研修会を開催し、
天敵等資材の有効な
活用方法を模索

普及に向けた取組

環境に優しい持続可能ないちごの安定生産実現のため、県内での普及実績が極めて少ない化学農薬以外の防除資材の中で、特にアザミウマやアブラムシへの高い防除効果が期待できる光反射素材や天敵昆虫の導入を目的にIPM技術モデル実証ほを主要産地に設置し、現地検討会を開催するなど県内全域での推進を図る。

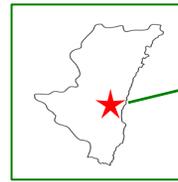
問い合わせ先

大分県農林水産部地域農業振興課安全農業班
TEL:097-506-3661

背景・課題

宮崎市の農業は、冬季に温暖で日照時間の長い気候条件を活かし、野菜や果樹、花きの施設園芸を基幹品目とし、早期水稲や畜産を組み合わせた農業経営を軸に発展してきた。特に、施設園芸で栽培する冬春きゅうりは、作付面積及び収穫量が全国1位（令和4年度）と、全国でも有数の産地となっている。

一方で、昨今の燃油等の高騰により、生産者の所得確保が難しくなっていることから、燃油のみに依存せず、かつ収量・品質確保が可能な施設園芸営農モデル（以下営農モデルという。）を確立する必要がある。



宮崎市

構成員

宮崎市、宮崎県、宮崎大学、施設園芸農家、JAみやざき宮崎中央地区本部、宮崎県中部農業改良普及センター、宮崎県総合農業試験場

品目

きゅうり

成果目標

化石燃料（A重油等）使用量を100%低減する。

主な取組内容

- 省エネ技術を先進地に実施している産地への視察、営農モデル確立に向けた検討会を開催
- きゅうり栽培における高保温性カーテン、電熱線による培地加温技術体系の検証
- きゅうり栽培における営農モデル確立に向けたマニュアル作成、生育評価、環境影響評価を実施



営農モデル確立に向けた検討会の様子



高保温性カーテン



超高保温性カーテン

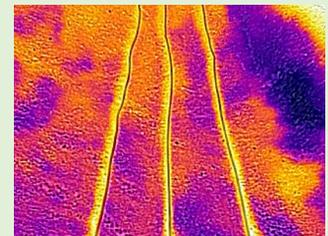
被覆資材の比較



電熱線の設置



電熱線設置の様子



電熱線発熱の様子
サーモグラフィ

普及に向けた取組

きゅうり栽培における高保温性カーテン、電熱線による培地加温技術体系の検証を行い、生育評価、環境影響評価を実施し、営農モデル確立に向けたマニュアルを作成する。また、作成したマニュアルを活用しつつ、導入を希望している生産者等に対する助言、指導等を行う。

問い合わせ先

宮崎市SDGs 対応型施設園芸推進協議会事務局（宮崎市農政企画課）
TEL: : 0985-21-1785

高鍋・木城有機農業推進協議会（宮崎県高鍋町、木城町）

R5補正
R6当初

75

背景・課題

当地域における有機農業に関する課題として、①当地域の気候や土壌等の環境に合った有機農業の栽培技術について確立途中であることなどから、現時点で正しい情報や知識が浸透していない場合もあること、②生産コストや収量の減、栽培技術、防除等の手間、販売先等に関して農業者が不安を抱えていること等が挙げられる。

成果目標

有機農業の取組面積（有機JAS認証面積）

現状（R4）15ha →（R9）18ha

有機農業で生産された農産物等の販売数量

現状（R4）87t →（R9）189t

有機農業に取り組む農業者数（有機JAS認証取得者数）

現状（R4）2人 →（R9）5人

主な取組内容

①生産

- ・有機農業指導員や先進的農家を招へいした新規参入者向け研修会を開催
- ・土づくり、栽培方法等に関する技術講習会を開催

②加工・流通

- ・有機農産物を取り扱う県内業者と生産者による意見交換会を実施
- ・地域認証農産物等の販売を目的とした直売所での特設コーナー設置に対する調整
- ・農産物直売ECに関するセミナー開催

③消費

- ・学校給食及び教育・保育施設への有機米（特別栽培米含）、有機野菜（じゃがいも・人参・さつまいも）の提供
- ・有機農産物啓発イベント（オーガニックフェスタ等）を開催

オーガニックフェスタ
「オーガニック&こだわりマルシェ」



オーガニック給食を楽しむ子供たち



普及に向けた取組

高鍋町、木城町では有機農業サポートセンターを設置し、生産者に対する伴走型の支援を行うとともに、地域内外の有機農産物や加工食品を取り扱う販売会やマルシェ等のイベントを開催することで、流通・消費の面から地域としての取組をアピールし、幅広い世代に対する啓発活動を行う。

問い合わせ先

高鍋・木城有機農業推進協議会

TEL：0983-32-4739（木城町役場有機農業推進室）

南さつま市（鹿児島県南さつま市）

R5 補正
R6 当初

76

背景・課題

南さつま市では有機農業をはじめとした自然循環型農業の促進を積極的に行っている。自然農法体験学校「ありのまま分校」を平成27年度から開校し、有機農業への理解を深めたり、生産・流通・加工・消費と様々な取組を実施することで有機農業の周知を図っている。

成果目標

有機農業の取組面積（いも・野菜類）

現状（R2） 6.8ha → （R9） 9.4ha

有機農業で生産された農産物等の学校給食等への供給量

現状（R2） 70kg → （R9） 2,500kg

有機農業に取り組む農業者数

現状（R2） 15人 → （R9） 16人

主な取組内容

市内唯一の農業学校である県立加世田常潤高等学校のほ場の一部を有機農家の研修ほ場として管理し、担い手育成を行っている。また、有機農家が中心となり同高校等での実習を行っている。

①生産

- ・たまねぎを大きく育てて安定した出荷を目指すプロジェクトを実施。

②加工・流通

- ・加工野菜を学校給食に納入するための検討を行った。
- ・R5年度にんじんの葉を使った「ニンジン葉っぱ塩」やジェノベーゼソースの開発を行った。
- ・R6年度地元飲食事業所の協力を得てメニューの開発を行っている。

③消費

- ・学校給食への納入。（令和4年度～）
- ・学校給食に納品できる野菜を「ありのままお野菜」と表記し、ブランディングを行っている。
- ・有機農産物を入手しやすいよう、イベント等での販売会を行う。また、PR活動を行っている。



南さつま市

構 成 員

南さつま市、県南薩地域振興局、自然農法・オーガニック野菜委員会、県立加世田常潤高等学校、希望が丘学園鳳凰高等学校、(株)MOA商事、学校給食センター等

品 目

野菜（にんじん、いも等）



ありのままお野菜



県内初となる学校と市の有機に関する協定締結



学校給食へ納品



ありのまま分校での作業風景

普及に向けた取組

市内イベント等での販売会で市民への有機農業の周知及び自然農法体験学校「ありのまま分校」の開催により、有機農業をはじめとした自然循環型農業の促進を積極的に行っている。

問い合わせ先

南さつま市役所産業おこし部農村振興課生産流通係
TEL：0993-76-1603

南種子町有機農業推進協議会（鹿児島県南種子町）

R5 補正
R6 当初

77

背景・課題

青果用さつまいもの『種子島安納いも』は全国的にも広く認知され、農林水産省の地理的表示産品として登録されている。

南種子町は、2022年6月にゼロカーボンシティを、翌年3月にはオーガニックビレッジを宣言し、持続可能な食料システムの構築に資する取組として有機農業を推進している。『種子島安納いも』についても排水対策等による病害対策や有機質資材を活用した、環境にやさしい栽培技術の確立及び省力化が課題となっている。



南種子町

構 成 員

南種子町、かごしま有機生産組合、熊本支庁、生産者

品 目

かんしょ



成果目標と主な取組内容

- ① 明きよ・暗きよやレーザーレベラー等による排水対策
- ② 土壌分析に基づく有機質資材の活用
- ③ 簡易キュアリング等の活用
- ④ 直進アシスト等のスマート技術を活用

①～③の取組により、病害発生の抑制、化学肥料の施用量低減といった環境にやさしい栽培技術の有用性を検証し、技術を確立するとともに、④による省力化の実現を目標とする。



額縁明きよ、弾丸暗きよ、レーザーレベラーによるほ場の緩傾斜均平作業を実施し、対照ほ場との比較により排水対策の有効性を確認

額縁明きよ作業の様子



直進アシスト機能付きトラクタを用いた畝立て・自動植付け機を活用した省力化



土壌分析及び土壌センサーによる土壌化学性の分析、坪掘りによる収量・品質調査を実施することで有機質資材の有効性を確認

露地センサー設置



キュアリング処理による貯蔵中の芋の腐敗発生状況の比較を行う

キュアリング施設等視察

普及に向けた取組

環境にやさしい、さつまいも栽培技術を確認し協議会で栽培マニュアル・産地戦略を策定するほか、明きよ・暗きよやレーザーレベラーによる排水対策、有機質資材、スマート農業機器の活用等取組の作業状況を町民に公開することで理解を深め、地域への普及を図る。

問い合わせ先

南種子町有機農業推進協議会（南種子町総合農政課内）
TEL：0997-26-1111（代表）